

平成29年度 第2回なかい戦略みらい会議 議事録

日時 平成30年3月22日(木) 10:00～

場所 中井町役場3階 大会議室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
 - (1) 地方創生拠点整備交付金事業について
 - (2) 地方創生推進交付金事業について
 - (3) 中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業について
- 4 その他
- 5 閉会

【会議資料】

- 資料1-1：地方創生拠点整備交付金事業〔里都まちガーデン賑わいと交流拠点整備事業〕
- 資料1-2：里都まち魅力創生拠点整備プロジェクト 事業報告
- 資料2-1：地方創生推進交付金事業〔スポーツとブランドが融合した「里都（さと）まちなかい」魅力発信プロジェクト〕
- 資料2-2：里都まちブランドプロジェクト 事業報告
- 資料2-3：里都まちスポーツプロジェクト 事業報告
- 資料2-4：里都まちプロモーションプロジェクト 事業報告
- 資料3-1：地方創生推進交付金事業〔県西地域活性化プロジェクト推進事業〕
- 資料3-2：県西地域活性化プロジェクト推進事業 事業報告
- 資料4：平成29年度第1回なかい戦略みらい会議 指摘事項への回答
- 資料5：平成30年度新規実施事業

【会議録】

- 1 開会
鶴井企画課長より開会
- 2 あいさつ
杉本座長よりあいさつ

3 議題

(1) 地方創生拠点整備交付金事業について

座長 次第に沿って1番上からいきたいと思います。この地方創生拠点整備交付金に関わる事業の報告、行政状況、来年度の事業予定について説明がありますので、ぜひ聞いていただいて、ご意見いただきたいと思います。では、事務局のほうからよろしくお願いいたします。

事務局 資料の1-1をご覧ください。ここから着座でご説明させていただきます。こちらは、地方創生拠点整備交付金事業の報告となりますが、後ほどご報告します地方創生推進交付金事業も含めまして、今回の会議では国からいただいている地方創生交付金を活用した事業の報告を基に、委員の皆さまからご意見をいただいて、事業の改善に努めることが求められていますので、事業の報告が長くなりますが、少し省略をしながら、できるだけ速やかに説明をしていきますので、ご了承いただければと思います。

それでは資料の1-1からご説明します。地方創生拠点整備交付金事業「里都まちガーデン賑わいと交流拠点整備事業」になります。事業の内容としましては、1番『町が町民や「里都まち CAFE」の管理運営者と協働して、交流人口増加や地域経済活性化に取り組む拠点である「里都まち CAFE」の魅力向上させるため、拠点施設と周辺部を「里都まち GARDEN」として一体的に整備する』ものです。

実際の整備の内容としましては、資料1-1の右下の図をご覧くださいつつ、また配布しました現地の写真もご覧くださいながら、見ていただければと思います。一つは里都まちキッチンの建築になりまして、図で言いますと真ん中の右側ですね。ピザ釜、かまどを設置し、料理教室などの体験ができる施設となっております。ピザ釜、かまどにつきましては、中井町商工振興会が手作りで作製をします。

二つ目としまして、里都まちキッズガーデンの整備です。こちらは図の左上になりまして、保育園の園庭をイメージした、芝生のキッズスペースを整備するものです。三つ目、里都まちミニパークの整備。こちらは図の下の方ですね。広く緑色になっている部分になりまして、健康増進やコミュニティ活動などを実施できる、芝生の多目的スペースとなっております。四つ目、『レストハウスにウッドデッキを設置』になりまして、図の左下ですね。ステージとしての活用や、腰をかけて休憩することができるウッドデッキを設置します。五つ目、『駐車場の整備』になりまして、図で言うと右下です。アスファルト舗装をしまして、キッチンカーを活用したイベントの検討をしています。

続きまして資料の1-1の2ページ目をご覧ください。ここから『平成29年度重要業績評価指標(KPI)』ということで、この事業の目標に対する、実際の実績成果のほうを報告する記載となっておりますが、まず初めに具体的な事業の報告を詳しくさせていただきたいと思いますので、先に資料の1-2のほうをご覧ください。

こちら1ページ目最初なのですが、まず1番として、なかい里都まち CAFE のプレオープン。昨年5月21日に、なかい里都まち CAFE がプレオープンとなりまして、当日は1,000人を超える来場者の数を記録しました。CAFEの外では、約20店舗のお店が出店をしまして、町出身のアーテ

リストである小澤紗来さんらによる音楽イベントも開催され、大いに盛り上がりました。その様子が写真のとおりです。

続きまして2番としまして、なかい里都まち CAFE の施設貸し出しを開始。昨年の7月からなかい里都まち CAFE の施設貸し出しということで、一般の方に貸し出しをしております。これまでにスイーツデコのワークショップ、これが写真の左上のものになります。また骨密度測定会、これが右上の写真になります。日中だけではなく、夜の施設利用を可能にして、映画上映会なども行いました。その様子が右下です。また左下の写真については、書道のワークショップになっております。また、町を盛り上げていくためにこんな企画をやりたいという、意欲がある方が出てきておまして、主体的に町づくりに参画する町民・団体が今、増えている状況です。

続きまして2ページ目をお願いします。連携した取組になります。町で推進する里都まちスポーツプロジェクト、ブランドプロジェクト、プロモーションプロジェクトの取組をなかい里都まち CAFE を中心拠点として展開をしております。また、隣接する里やま直売所と連携をして、直売所がオープンしていない平日に直売所の農産物をなかい里都まち CAFE で販売したり、また町内の小中学生の作品を展示したりしております。写真のほうの説明なのですが、一番上が昨年度より実施しています、里都まちなかいノルディック・ウォークというイベントになります。左側が、里都まち CAFE 内で教室を開いたときの様子で、また後ほど具体的に説明をするのですが、右側が手軽にノルディック・ウォークができるようにポールの無料貸し出しを開始しました。

続いて真ん中左の写真ですが、これが町で開発を進めている、ブランド特産品の販売をしている様子です。また右側が、広告バナーによる町の魅力の発信ということで、町の魅力あるスポットをバナーで紹介しております。左下の写真ですが、里やま直売所で扱っている商品をなかい里都まち CAFE で販売しておまして、また町の情報も掲示して発信をしております。右側が小中学生の作品の展示です。

続きまして3ページ目、4番メディアによる取材等です。なかい里都まち CAFE のプレオープンに際しまして、テレビ取材、タウンニュースや新聞社による取材を受けました。また、フリーマガジンに掲載していただくなど、なかい里都まち CAFE の存在、中井町の魅力を広く発信してきました。また、なかい里都まち CAFE をもっと知ってもらい、もっとすてきな場所にするためには、どのようなことができるかについて考える授業を中村小学校4年1組で実施していただきまして、子どもたちが考えた成果を形にするために、小学生がチラシを作成し、町の公共施設に掲示しました。そのときの作品が左の写真です。その後、全作品をなかい里都まち CAFE に集約して掲示しています。

なお、本年3月になかい里都まち CAFE のホームページを立ち上げまして、今後さまざまな媒体を活用しながら、情報発信を行っていきたいと考えております。右側の写真が、ホームページのトップページになっておまして、この左上にハートが重なったマークがあるのですが、これが里都まち CAFE のロゴとして、今後は活用していく予定ですので、このロゴを有効に活用しながら、情報発信を図っていきたいと考えております。

最後に5番、平成30年度の事業予定になりますが、3月で里都まちガーデン拠点整備工事が完了しまして、里都まち交流拠点が整備されます。これから、ピザ釜と、かまどの作製に着手し、完成次第グランドオープンを予定しております。なかい里都まち CAFE のプレオープンの際には、町で活躍している団体等の協力を得て、プレオープン記念のイベントを実施しましたが、グラン

ドオープンにおいても、記念イベントを計画しております、プレオープン以上に盛り上げたいと考えております。また、この施設を活用して、次のような取組を生み出していきたいと考えております。

まず一つ目としては、『里都まちキッチンに設置するピザ釜・かまどを活用した料理体験教室などの開催』。二つ目に『里都まちミニパーク(芝生エリア)を活用した健康体操やヨガ教室の開催』。三つ目『キッチンカーを活用したイベントの創出』です。これらの他にも里都まち交流拠点を使って、こんなことをやってみたいという方の発掘を行いまして、町民や団体などが自主的に自由な活動ができるような環境を整え、またその情報発信をしていきたいと考えております。この整備が完了しましたら、竣工記念パンフレットのほうを作成しようと考えておりますので、そういったものも活用しながら、さらなる周知を図っていききたいと考えております。今年『なかい誕生 110 年』という記念すべき年でもありますので、町全体で各事業を盛り上げていきたいと考えております。

それでは資料の 1-1、2 ページ目のほうにお戻りください。こちら 2 番と 3 番を含めて、一緒に説明をさせていただきます。この表のほうをご覧ください。まず、KPI 目標としましては三つ設定しております、一つ目、『「里都まち CAFE」「里都まち KITCHEN」飲食料年間販売額』。29 年度の目標値としては 200 万円を目標としておりまして、実際の数値としましては 700 万円になる見込みでございます。この表の実績値の欄につきましては、かっこ付きのものが見込みになっておりまして、かっこが付いていないものは実績値でございます。

続いて 2 番の『里都まち GARDEN におけるイベント来場者数、里都まちなかいチャレンジ教室延べ参加者数』になりますが、こちらについては目標値として 200 人であったところ、実際にこのガーデンの工事のほうが、3 月末に完成となったことから、イベントがまだ実施できておりませんので、成果としては 0 人となっておりますが、先ほどご紹介しましたとおり、いろいろ里都まち CAFE のほうでも、ワークショップを開催したりなど、いろいろ自主的な活動をしてくださっている団体も増えておりますので、そういった方も取り込みながら、また来年度については、もちろん整備がされますので、例えば、ピザ釜、かまどを使ったイベントなど、そういったものを各種やっていきたいと考えております。

三つ目としまして、『里都まちイベント実施団体数』。こちらについては目標値 5 団体としているところ、実績値としては 4 団体としておりますが、こちらにつきましても、個人や団体、企業によるワークショップなど、施設利用をさまざまやっておりますので、ここの数値に表れていない部分についても、いろいろな方が出てきて、活動をしてくださっています。そういった方とまた連携をして、今後も事業展開を図っていききたいと考えております。以上で地方創生拠点整備交付金事業についての報告終わります。

座長 ありがとうございます。ただ今、事務局のほうから資料の説明がありました。検証を行うということですが、皆さんご意見をいただければと思います。はいどうぞ。

委員 カフェの飲料年間販売額の目標値が 200 万が、700 万にいくという、非常に喜ばしい結果だとは思いますが、これ内訳はなんなのかっていうことと、あとこのメニューに対する町民とか、ユーザーの評判は把握されておられるのかということと、あとこれ大井町にも同じよう

な施設があるんですよね。その辺の差別化を図るのか、協調してやってくるのか、プロモーションどうされるのか。という3点について聞きたいんですけど。

座長 はい、お願いします。

事務局 こちらの金額の内訳につきましては、施設の貸し出し等も実際には入っているところがございます。年間の利用については、各月、大体平均として50～60万円くらいの売り上げがございまして、もう少し細かいところの物販の販売ですとか、そういったところの数値もいただいているのですけれども、現状手持ちでございませぬので、把握はしているというところではあります。

また、実際のここを利用してのお客さまの声につきましては、アンケートのボックスもありまして、それで実際メニューがおいしいという声もあれば、例えば皿をこういうふうに変えてほしいですとか、そういった要望も出ておりますので、そういうのも集計しながらまとめて、どういった展開が図れるかということも考えております。

また、大井町のほうにもピザ釜を使った施設があるというのは承知しておりまして、実際その視察も事前にさせていただきながら、この事業を展開しています。ですので、できればこの辺の近辺で、交流人口ということ考えると、連携しながら、来ていただくということもありえますし、逆に、同じような施設ですと差別化を図って、たくさんの方に来ていただくということも大事だと思っておりますので、そういったところは分析しながら、随時改善をしながらやっていきたいと考えております。以上です。

座長 よろしいですか。

委員 とりあえず結構です。

座長 ありがとうございます。他いかがでしょうか。はいどうぞ。

委員 同じところなのですから、販売額ってありますけど、カフェは毎日オープンしているのですか。つまり1日当たりの売り上げがどういう形になるのかと。

事務局 はい。現状では月曜日が定休日になっておりまして、それ以外はオープンしているところではあります。ただ、昼間のランチ提供につきましては、土日祝日は行っておるのですが、それ以外については現状まだプレオープンということもありまして、提供はしていないというところではあります。また、日々の売り上げにつきましては、こちらでも報告をいただいておりますが、実際には平日の売り上げが、なかなか芳しくない状況です。一方で、休日は結構それなりに販売額が出ているという状況になっております。以上です。

座長 はい、よろしいですか。他いかがでしょうか。はいどうぞ。

委員 ありがとうございます。積極的に動いていただいているなと思っております。特に最近、町民

の方がこのカフェをきっかけに、いろいろ動きが出ているというお話も心強く感じたんですけども、具体的に、どんな形の活動がカフェをきっかけに生まれたのか、あるいはカフェをきっかけにより発展をしたのかについて、分かる範囲で聞かせていただければと思います。

座長 はい、お願いします。

事務局 資料の1-2でも、ご紹介したのですけれども、スイーツデコのワークショップですとか、骨密度測定会などを実際実施しまして、これまで活動していなかった方というのも積極的に、我々でもこういう事業に参加できるということで、参加していただいたり、また主催する側としても、施設がなかなかないのでけれども、この里都まち CAFE ができたことによって、気軽に使える施設ができたということで、実際にご利用いただくことが増えております。

委員 主催者団体というのは、今までは必ずしも十分に活動してなかった団体が、これによって活動したというようなお話で、通っているんですけども、具体的にはどの。骨密度とかなんとかは、町のほうがやられている印象があるのですが、地域の団体だとか、地域活動をされている方が、積極的にいろんなイベントを主催をされていく、そういう方向になってきているということで、理解してよろしいでしょうか。

事務局 そうですね。実際にそういった方もいらっしゃいますし、例えばこの骨密度のほうは説明不足で申し訳ないのですが、実際に地元の企業のほうで主催していただいております。また現在、まだ実際には実施まで至っていないのですが「このカフェの中で英会話教室をやりたい」と言っているような方も、実際声を聞いております。ですので、そういった方の要望も伺いながら、実際に実現できていたらなと思っております。

委員 ありがとうございます。

座長 他いかがでしょうか。はい、よろしく申し上げます。

委員 ここなのですが、資料1-2の3ページ、30年度のやつなのですが、かまどやピザ釜が完成次第グランドオープンというお話なのですが、見込みとしてはどのぐらいなのでしょう。

事務局 現状、ご説明したとおり中井町商工振興会のほうで、ピザ釜とかまどにつきましては整備をします。それで、工事のほうは3月で終了しますので、おおむね4月、5月をかけまして、5月までには整備をしていただくように、今お願いをしているところです。ですので、それが完了してから、グランドオープンというふうに考えております。

座長 よろしいですか。

委員 はい。

座長 他いかがでしょうか。

委員 途中参加なもので基本的なところなんですけれども、施設の貸し出しというのは有料なんですか。

事務局 はい、有料でやっております。

委員 ここで、里都まち CAFE で儲かったかって、どなたの収益になるんですか。

事務局 中井町商工振興会のほうで、いったん受けるんですが、実際細かいことを言いますと、ランチを提供していただいているキッチンの方も別にいらっしやいまして、そことの割合というのがあるのですが、基本的には商工振興会のほうで受けて、その方の収入になるということなんです。

事務局 いいですか。基本的には、公設民営ということで、管理運営は全て、中井町商工振興会にお願いしております。ですから、基本的には収入は全て管理運営をしていただいている中井町商工振興会の収入になるということで、ご理解をいただければと思います。

座長 他いかがでしょうか。では、質問が一つ。当初、ファンクラブでしたっけ、出資していただいた。その辺の活動は今後どうされるのか、ご説明がなかったので、紹介していただければ。

事務局 実際、里都まち CAFE をオープンするにあたりまして、賛助会員というのを商工振興会のほうで募集をさせていただいて、そういった方たちも加わっていただいているのですが、実際にそれを形として、どのような事業に生かすかというところまで、できていないところがございますので、その活用につきましても、町と商工振興会のほうで、連携、相談をしながら今後有効に活用させていただきたい、連携をして取り組んでいきたいと考えております。

座長 確か、イベントの参加費が少し安くなるとか、そういう。

事務局 施設の使用料ですね。

座長 パンフレットのほうに書いてありましたよね。そういうメリットは、今のところあるんですね。

事務局 はい。

事務局 追加ですいません。今お話ししましたように、施設のその辺の、使用料の割引とかですね。あと、参加者には、無料券的なものも一部、飲食、飲み物の無料券的な。多少の差別化はさせて

いただいた中で、協力していただいた方に対してのアプローチのほうはさせていただいております。今後については、今担当が話しましたように、修正していきたいというふうに思っております。

座長 できれば商工会のほうには、年間の活動報告書みたいなのを一応、公式に資料を出していただいたほうが、次年度に向けての検討ができると思いますので。なんとなくあなあとすると、どっかが赤字になっているとか、そういうのが見えなくなりますので。部門別に、飲食は儲かっているけど物販は駄目だとか、いろいろあると思いますので。ぜひ、その辺の報告をきちんとしていただくということを町の方からよろしく願いたいします。他いかがでしょうか。

委員 すいません、中央公園内でマーケットとかマルシェがかなり増えてきて、そこで開催すると、飲食がかなり出てくると。アスファルト部分、キッチンカーイベントとかを開催すると、この里都まち CAFE 内での飲食物が売れなくなってくるなという影響が出てくると思うんですけど、そういったものの共存とかって保たれたりするんですか。

事務局 もちろん、どちらかが売れて、どちらかが売れないという、マイナスに考えるとそういうこともあるのですが、人をたくさん呼ぶことによって、お互いに相乗効果で売れる、たくさん来ていただくきっかけになるというふうに考えておりますので、ある程度制約が出てくるかもしれないですが、町としてはそういうところを積極的にコラボさせて、盛り上げていきたいというふうに考えております。

委員 ありがとうございます。

座長 はい、どうぞ。

委員 この芝生とかウッドデッキは、これから作られるんですね。

事務局 ウッドデッキにつきましては、既に設置はされているのですが、芝生につきましては、これから養生期間になっておりまして、数カ月、2、3カ月はかかると思いますので、写真の中ですと、芝生が生えそろうているような、そういったイメージの写真にはなっておりませんので、今後、ここについては養生させていただいて、それが生えそろうてから、実際には皆さんに活動で使っていただくというふうに考えております。

委員 素人まがいなんですけど、芝生とかウッドデッキって、手入れ、メンテナンスが大変じゃないかと思うんですが、そこら辺は大丈夫なんでしょうか。ランニングコストというか。

事務局 そうですね、例えば芝生のほうで言いますと、その管理につきましては、町のほうで来年度委託をさせていただきたいと考えております。またウッドデッキにつきましても、いろいろ雨風にさらされていけば、当然傷んでくるところもありますので、それについては状況を見て、

修繕等の対策は必要かなというふうに考えております。

委員 不安になったもので。

座長 本当は、市民参加でもうちょっと連絡等できるというのが、軌道修正の技術としては本来、大事なのかと思いますけど、その辺は商工会がやることだからやりにくいというか。

委員 今委員長おっしゃられていたようにですね、アダプト活動とか、アダプトプログラムという形で、地域の公共的なものを市民あるいは、町の施設の近くの人たちが管理をする。ボランティアに管理をする仕掛けというのは、いろんな地域で行われていると思いますので、ぜひ。まあ特に芝生なんかは、専門性もあるでしょうけれども、少なくとも、だいぶ汚れてきたよねとか。ウッドデッキが、あれはほっとかされるとかえって非常にマイナスイメージになると思いますから。それがすぐ、町の人たち、あるいは使っている人たちが、商工会に連絡をしてもらおうとか。あるいは場合によって、緊急的な修繕をしてくれるとか。

そういうふうな形の若干の組織化みたいなものも、アダプトプログラムなどの活動も参考にされながらやられると、少し意味があるかなと思いますし、役所、役場が作ってくれました、私たちは使う人ですではなくて、一緒になって作っていくという発想を作るためにも、有効かなと思いますので、ご検討いただければと思います。

事務局 ありがとうございます。

座長 あと、30年度に向けて一つ気を付けていただきたいのは、今年度は、地方創生交付金という公共事業の場合は、対象としたところだけを紹介していただいているんですけど、使う側からすると、この下には市場がありますし、それから広い駐車場もあるので、ガーデンというのは、今回整備したところだけを示すのか。市場も含んで、要するに公園のある中心部はガーデンと称して、市場も一緒に取り組んでご紹介していくというような形をしないと、使う側からすると、上の段にあるものは下にあっても別のものだみたいな。いわゆる、そういう役所の縦割りみたいな形に見えるというのが、利用者にとって非常によくないと思いますので。ぜひ交付金はそういうのが目的じゃないと思いますので、拠点整備が終わったら全体を一つとして、今後も紹介していくようなものづくりをぜひ30年度は、今の活動も含めて、検討していくか。マルシェをやってらっしゃる方なども、ある程度場所について、多分ここが整理されるとどういう利用方法で使うかという、その辺、どういうふうに決めていくのか。全部、商工会の人が考えてくださるのであればいいと思うのですが、公園全体も管理されてる方がいらっしゃるの、その辺のところの整理をぜひ早めに、5月オープンだとすれば、2カ月ぐらいありますので、そのあいだにその辺詰めていただいて、戦略的に出させていただきたいかなと思います。そうでないと相乗効果が期待できない。できれば毎日開いていただくような方向に、将来なっていたらいいと思うのですが、市民の方にとってみると、魅力的な場所になると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

アドバイザー 一言フォローよろしいでしょうか。

座長 はい。

アドバイザー 実際上は、商工会の中に女性部会というのをつくっていただきまして、女性部会のほうで、頑張ってマネジメントしていただいて、今その方を中心にして、町民の方集めたり、あるいは先生今言いました、いろんな団体とリンクしたり、直売所の方と話し合ったり、だいぶやられていくようになりまして、相当活動は活発になってきています。

さらにカフェの運営について、ボランティアで周りに10人ぐらいの女性が事実上スタッフになったりして、カフェの運営について協力しているというところまでできていまして、今そういう意味で、そういうスタッフの方と協力会みたいな組織をつくって、次どういう運営するかみたいな話を相談をだいぶかけているという現状で、このスタッフの自主性でどこまで盛り上げられるかというのをだいぶ検討しておりますので。また、いろいろと今いただきましたアイデア等をいただければと思っています。

座長 ありがとうございます。他いかがでしょうか。

委員 公平性とかという話の中で、私ちょっと思い出してみたところでは、生産者の直売所があるんですね、施設の下に。それで、上でも野菜売っているということで、値段の調整ですよ。これは、要するに自由経済だから、好きにやればいいんだという考えもあるでしょうけれども、まあ不公平感というか。ユーザーから見て、あっちは同じものが安いのに、それをそのままにしておくのか。大勢が参加する、マルシェで比べるとまた値段は別かもしれないですけども。

常設店で値段の調整をするべきか、しないほうがいいのかというのは、全体としてあるんですが。現状では、ちょっと不満があるような話も聞いていますので。ベストのところも、補助金の問題もそうですけど、値段の付け方も調整するなり、調整したけどうまくいかなかったってことは、そういったところの工夫もしていく必要があると思うんですけどいかがでしょうか。

座長 どうですか。

アドバイザー 値段の調整も含めて、マネージャーの方が、いろいろと汗かきながらやっておられるというふうに聞いています。

委員 特に改善はしてない。

アドバイザー はい。

委員 当初から変わってないということですか。

事務局 そうですね、直売所の関係、座長のほうからもお話いただきました。取りあえず、直売所のほうがお休みの日はオープンということで。カフェのほうは、土日は直売所で売っているも

のは売らないで、平日一部やらせていただいているということで。これも商工振興会のほうと直売所の方も含めた中で、いろいろ調整をしている中で、そういう運営をさせていただいておりますので。その中で、そういうことがあれば、調整今後していくことも可能かなというふうに思っておりますので。

委員 いずれ毎日って話もあるわけですから、日が違えばいいってことじゃないと思うんですね。

事務局 もちろんそうです。その中で、調整をさせていただきながら進めることが大事かなと。

委員 意識しておると。

事務局 はい。

座長 はい、他どうぞ。

委員 この公園内の所になるんですけど、このカフェができたことで、すごい注目度が周りの近隣の人たちも上がっているんですけど、公園の中の遊具が、全然使えなかったりとかっていうのも聞いていて。例えば修復がいつ頃に完成しますとかいうのは、ホームページ上とかに出ているのであれば、遊びに来る方も、抵抗なく来るのかななんて思っていたんですけど、海老名とか、伊勢原から来てる方もたくさんいらっしゃるって、せっかくあそこに遊びに来たのに、全部ガムテープがぐるぐる巻きにされて入れなかったっていうお話をだいぶ聞いているので、その辺は今後どうなんですか。

座長 取りあえず分かることいいですか。

担当課 遊具については、大型の複合遊具が1年間、本当に修理ができなかったということで、皆さんにはご迷惑をおかけしました。それについては、今年度3月中には開設ができるということで、グラウンドオープンには、小さい子ども用の遊具も設置をし直しますので、それに合わせた形で、今後は管理をしていきたいと思えます。確かに15年もたった遊具なので、どうしても不具合が出てきますので、その辺は指定管理者のホームページのほうで、お知らせをしていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

委員 そのホームページは、町のホームページとリンクするのですか。

担当課 今、町のホームページから、指定管理者のほうに飛ぶような形で、リンクはできていますので。

委員 はい、ありがとうございます。

座長 ぜひ現場にも立て看板を1枚ぐらい、仮でも構わないけど出していただいたほうがいいんじゃないかと思います。他いかがでしょう、よろしいでしょうか。また気が付いたことありましたら、最後にまたお聞きしますので。では、2番目の議題にいきたいと思います。2番目は、地方創生推進交付金事業の内容について、事務局から説明をいただいて、皆さまからご意見をいただきたいと思います。

(2) 地方創生推進交付金事業について

事務局 資料の2-1をご覧ください。ここから少し説明長くなります。よろしくお願ひします。『地方創生推進交付金事業 スポーツとブランドが融合した「里都(さと)まちなかい」魅力発信プロジェクト』です。事業の目的としましては、中井中央公園や里山等の地域資源を活用した里都まちスポーツと、本町の多種多様な農産物を活用した里都まちブランドの融合により、町の魅力の発信に磨きをかけ、里都まち交流拠点を中心に憩いと交流の場を提供する。人の流れを呼び込むことにより、地域の活性化を図り、まちなかにぎわいを創出するものとなっております。

事業の概要としましては、その下なのですけれども、まず『里都まち魅力創生拠点整備プロジェクト』。こちらにつきましては、先ほど拠点整備事業のところでご報告したとおりです。

2番目に、『里都まちブランドプロジェクト』。これは、農商工、町民が連携をして、町内の農産物を活用した特産品として商品化を図り、里都まちブランドとして認定を行い、経済活性化を図るものです。三つ目『里都まちスポーツプロジェクト』。町の特徴である自然環境や、スポーツ環境を活用し、スポーツの振興や健康づくり活動の推進を図るとともに、スポーツを通じて、交流人口、定住人口の増加や地域の活性化を図るものです。

四つ目『里都まちプロモーションプロジェクト』。町のイメージアップと、認知度向上のため、文化、自然、観光などの情報について SNS 等を積極的に用いながら、効果的な情報発信を図るものです。続きまして資料2-1の2ページ目、ご覧ください。こちらにつきましては、先ほどと同様に、目標と目標値が書いてあるのですけれども、同じように、先に事業報告のほうをさせていただきたいと思いますので、こちら飛ばしていただいて、資料2-2をご覧ください。

こちらから里都まちブランドプロジェクトの事業報告になります。1番の目標につきましては割愛をさせていただきます。2番の『事業実施スケジュール』ですが、部会を年4回開催しまして、各施策を実施しました。施策の内容につきましては、資料引き続きご説明ありますので、そのまま2ページ目をご覧ください。3番の『里都まちブランド開発支援』です。昨年8月3日から9月15日の期間で、里都まちブランド開発支援補助を希望する方を募集しました。以下の品への支援として、総額199万5千円の補助を実施しました。品目としましては、高級シフォンケーキ、高級プリン。中井町産トマトを使用したトマトソース。地元農産物、特産品を盛り込んだピザ。中井町の特産物を使用した焼き菓子。中井町の豊かさ、自然を表した陶芸作品となっております。

4番にいきます。『里都まちまちなかいブランド認証』です。昨年10月2日から11月24日の期間で、里都まちブランド認証商品を募集しました。合計で11事業者、18商品の応募がありました。

た。また、昨年12月15日、19日の2日間にわたりまして、審査会を開催しまして、『なかいの逸品、太鼓判』として、5品をブランド認証しました。続いて3ページ目をご覧ください。認証された商品につきましては、里都まちなかいブランド認証品として、認証マークを利用することができます。下の赤く丸になっているマーク、これが『なかいの逸品、太鼓判』ということで、認証マークとしております。

加えて、町からの積極的なPR、ふるさと納税返礼品としての登録、商談会への出展の支援、なかい里都まち CAFE 等による販売を行い、販路開拓に向けて取り組んでいこうと考えております。なお、審査の結果認証とならなかった商品もあるのですが、審査会で指摘があった課題を解決しながら、認証に向けての改善に対して支援をしていこうと考えております。実際の認証商品につきましては、写真の左上からなのですが、『湘南アイスクリー』。その右、『緑みかんシロップ』。さらに右で、『ぼんぼん麺』。下にいきまして、『小生姜の佃煮おかず』。『みかん讃歌 みかんラーメン』となっております。

続いて5番『里都まちブランドワークショップ』です。ワークショップは年4回開催しまして、濱田様というアドバイザーの方を招聘しまして開催しました。テーマとしては、商品のアイデアの整理の仕方、アイデアを商品化する際のポイント、商品企画の作り方などについて、ワークショップを開催しました。続いて6番『里都まち♥なかいマルシェ』です。昨年12月と、今年1月、それぞれ横浜市青葉区あざみ野マルシェおよび東京都交通会館マルシェのほうに、出展をさせていただきました。当日はお客様の反応もよく、予定していた販売目標をおおむね達成することができました。お客様の中には、次回開催日を尋ねてくる方もおりまして、町外でのイベント出店を継続して行うことが効果的であると考えております。また出店する側としても、消費者の生の声を聞くことができまして、商品の見せ方や売り方などを見つめ直すよい機会となったと感じております。その下がマルシェの写真になっておりまして、引き続き4ページ目の上も、マルシェの写真になっております。

続いて7番『里都まちブランドマルシェ』です。今年2月17日に、里都まちスポーツプロジェクトの里都まちなかいキッズサイクルフェスティバルとの同時開催で、里都まちブランドマルシェを開催しました。新たに誕生した里都まちなかいブランド認証品を中心に、町のブランド特産品として開発を進めてきた商品が並びました。そのときの様子が写真のとおりです。

また、続いて8番『里都まち♥なかい体験ツアー』。こちらバスツアーになります。今月11日に開催しまして、先ほど6番で説明しましたあざみ野マルシェと関連しまして、あざみ野の方たちを中井町のほうにお呼びしてバスツアーを実施しました。まずは中井町長のほうから、歓迎のごあいさつをさせていただきまして、トマト園、みかん園での見学や収穫体験、また各所での買い物等を楽しんでいただき、全体で40名の方が参加をされて帰っていきました。そのときの様子が下の写真です。続きまして、5ページ目お願いします。9番『平成30年度の事業予定』としましては、さらなるブランド認証品の創出。またブランド特産品の開発に取り組む事業者の支援を継続。三つ目ブランド特産品開発支援を行った商品で、認証まで至らなかった商品につきましては、ブラッシュアップを図っていきたいと考えております。四つ目に、ブランド特産品のマーケットの確保と拡大です。

それでは、続きまして資料の2-3をお願いします。ここからスポーツプロジェクトの事業報告になりますが、同じく1番の目標については割愛をさせていただきます。2番の実施スケジュール

ルにつきましては、部会のほうを年6回開催しまして、施策につきましても、いろいろ展開をしてきたのですが、その報告につきましては3ページ以降になります。3ページのほうをご覧ください。『中井町スポーツ推進計画に関する意見交換会』です。昨年12月11日に、中井町スポーツ推進計画に関する意見交換会を開催し、町の文化スポーツ関係者を中心に40名の参加がありました。昨年策定した中井町スポーツ推進計画の概要を説明しまして、現在の取組状況などを報告しました。また、総合型地域スポーツクラブの政策的な背景、育成（設置）状況、必要性などについて、里都まちスポーツプロジェクト部会長より説明をいたしました。

中井町スポーツ推進計画の概要の理解と、総合型地域スポーツクラブとはどういうものなのかを認識していただくことが本会の目的でありまして、参加者アンケートの結果を見ますと、ある程度理解できたという回答が多かったことから、効果があったと評価しております。一方で具体的にどのようにすればよいのかイメージが難しいという回答も見られましたので、方向性の明確化が課題として挙げられると考えております。また、関係者との意見交換を密にし、イメージを共有していくことが求められると考えております。

続きまして4番『里都まちのなかいノルディック・ウォーク』です。こちらはノルディック・ウォークのイベントを実施したのになります。まず1回目、昨年12月に行いまして、これは座学と実技を行いました。写真の左側が座学の様子、これはなかい里都まちCAFEの店内で行いました。右側が、カフェ周辺のグラウンドで実際に実技をしたのになります。そして2回目につきましては1月開催しまして、こちらについては町内の8.6kmコースを実際に歩くものになっております。そのときの様子が写真のとおりです。

続いて4ページ目をお願いします。このイベントにつきましてもアンケートの結果を見ますと、ほぼ全員の方がまた参加したいと回答しておりまして、昨年度同じように開催したのですが、そのときの参加者13名から比べまして、倍の方が参加をしているような状況です。新しいスポーツとして浸透してきたということが伺えると考えております。一方で、町外の参加者の方が少なかったので、中井町でノルディック・ウォークをすることの楽しさを広めていきたいと考えています。今後、ノルディック・ウォークを手軽にできるようにするために、スポーツ交流の拠点である、なかい里都まちCAFEにウォーキングポールを設置しました。無料で貸し出しをしております。一般の利用者に使い方を説明できるように、スポーツ推進委員から、なかい里都まちCAFEのスタッフに、ウォーキングポールの長さの調節方法ですとか、グリップの握り方、歩き方などを指導していただきました。そのときの様子が写真のとおりです。

続いて5番『中井町の「地域スポーツ」を考える勉強会』。こちらは3回開催をしまして、中井町における地域スポーツや、地域生活をめぐる課題を考える。また、先行するクラブづくりの取組から学ぶ、中井町に合った地域スポーツクラブの在り方を提案するというテーマに沿いまして、町内の文化・スポーツ関係者の方に参加いただいて勉強会を開催しました。特に2月に開催した2回目につきましては、栃木県内の総合型地域スポーツクラブを運営するマネージャーの方を招聘しまして、実際に立ち上げでどんなことに苦労したとか、こういった展開をすべきだということのアドバイスをいただきながら、実際の町内の関係者の方と意見交換を交わしました。

続いて6番『里都まちのなかいキッズサイクルフェスティバル』です。こちら2月に行いました。先ほどもありましたけれども、ブランドマルシェと同時開催で実施をいたしました。ランニングバイクレースには、ビギナーから5、6歳クラスまで、100名のエントリーがありまして、その他

補助輪外し教室、ランニングバイク試乗会。縁日コーナーなどでは、町内外の子連れの楽しむ姿が見られ、約 700 名の来場者により、盛大に開催されました。また、運営には高校生ボランティアをはじめ、町づくりパートナーなどボランティアスタッフの活躍も見られました。

そのときの様子が写真のとおりになりまして、実際このときとりましたアンケートがございまして、有効の人数が 23 名の方から、アンケートに回答をいただいたものなのですが、約 4 割の方が町外でありました。東京、静岡、埼玉といったところですよ。参加の理由としては、一番はアクセスのよさだったと。また、イベントでよかった点は雰囲気。一方で改善点につきましては、競技内容。特に 5 歳と 6 歳のレースが一緒だったということに関して、意見として多かったです。また、このイベントについてとてもよかったという方が 78 パーセント。よかったという方が 22 パーセントで、よかったという方が 100 パーセントということですよ。

一方で、中井町を知らなかったという方が、39 パーセントいらっしゃいました。サイトを検索してみて今回のイベントについては知ったということで、参加いただいたということなのですが、実際参加していただくとよかったという声が大変多いですので、これは引き続き、一層周知をしてたくさんの方に来ていただける取組にしていきたいと考えております。

続きまして 5 ページ目、お願いします。7 番の『平成 30 年度の事業予定』です。まずはスポーツ推進計画の着実な推進。また、ノルディック・ウォークの普及および、町以外の自主的な活動の推進をしていきたいと考えております。三つ目、スポーツイベントの継続による交流人口の増加。四つ目、中井町にふさわしい総合型地域スポーツクラブの創出に向けた検討。五つ目、気軽に楽しめるニュースポーツの推進でございます。

続きまして資料の 2-4、お願いいたします。同じくまず、プロモーションプロジェクトの事業報告になりますが、目的については割愛をさせていただきます、実施スケジュールとしては、1 回の部会および、施策についてはシティプロモーションのワーキンググループを開催しました。

3 番の、『シティプロモーション WG』のところですが、3 回開催しまして、昨年度にも実施しましたワーキンググループを基に、より磨き上げる形で中井町の魅力を出し合い、それが誰にとって魅力となるのか、ターゲットをどんな人に絞り、どんなキーワードで PR をすれば興味をそそのか、といった観点でグループワークを行いました。それに沿ったツアータイトルや、ツアー内容を考えるという手法で、ブランドメッセージの検討を行いました。現在メインターゲットと、ブランドメッセージにつきましては、最終調整を行っているところなのですが。例えば、メインターゲットにつきましては、子育て世代で 30 代から 40 代。近隣都市に住んでいるような方ですか、そういったところを中心に、考えていきたいと考えておりますので、また最終の調整を図っていききたいと思います。

なお、3 回のワーキンググループを通しまして、参加者からさまざまなアイデアが出てきております。それを今後、活動に実際に生かしていくために、最後に今後こんな活動を展開していきたいというアイデアを各参加者の方が発表しました。今後、町ではそれに共感する方々を結び付けていく活動を考えていきたいと考えております。続きまして 4 番の『中井町シティプロモーション戦略指針を策定』です。こちらについて、戦略指針につきましても、現在最終の調整をしているところなのですが、現状と課題の整理、またメインターゲット、ブランドメッセージを設定しまして、また戦略指針、取組の方向性、シティプロモーションの展開体系等を具体化し、指標と効果測定方法などを設定して、戦略指針を作っていきたいと考えております。続きまして 3 ペ

ージ目をお願いします。5番で『イベントへの出展』です。中井町をより多くの方にPRするために、次のイベントへの出展を行いました。出展したイベントにつきましては、下の表のとおりで、全9カ所に出展をさせていただきました。そのときの様子が写真のとおりです。

続いて6番、『中井町の魅力発信』。中井町テーマソング『里都まちのうた』を放送となります。皆さんに聴いてもらい親しんでもらえるように、中井町のテーマソングとして誕生しました『里都まちのうた』を、以下の放送に利用しました。それが4ページ目、ご覧ください。まず一つが電話保留音。役場に電話した際の電話保留音に、アレンジバージョンのテーマソングが流れるように利用しました。また、防災無線。中井中央公園限定で、今行っているのですが。短くアレンジしたバージョンを定時放送で利用しております。将来的には、町内全域の防災無線の、定時試験放送での利用を目指し検証しております。続いて、町オリジナルのはっぴを制作し、各種イベント時に使用しました。そのはっぴが、写真の左側の青色のはっぴになります。またピンバッジ、缶バッジ、町の焼き印が押された都まんじゅうなどのノベルティの充実を図りました。

続いて、小田急線つり革広告です。中井町の存在を知ってもらうために、利用者が日常的、反復的に広告媒体に接触する電車のつり革を活用し、中井町独自の広告を1年間、小田急線1車両に掲載を続けることで、町外に向けて啓発を図っていくというものになります。こちらについては、これから実際に掲載をするというものになります。イメージとしては、右側の赤丸で囲みましたつり革のところに、真ん中のイメージのものを貼り付けるという形です。

続いて、なかまるLINEスタンプ。これも、これから実施するものなのですが、FacebookやTwitterよりも、ユーザー数が多いと言われていて、LINEを通じて使用してもらい、町内外に発信をしていきたいと考えております。このイメージ図のように、中井町のキャラクターであるなかまるを活用しながら、展開をしていきたいと考えております。そして7番『平成30年度の事業予定』ですが、シティプロモーション戦略指針の実行、ブランドブックの作製、中井町のテーマソングを活用した動画の作製、幅広いイベントへの出展になっております。

ここで資料2-1のKPIのほうにお戻りいただきたいと思っておりますので、2-1の2ページ目、お願いします。この事業につきましても目標値、同じように三つ掲げております。まず一つがなかい里都まちCAFE事業収入、アンテナショップ物販、飲食売り上げ等ということで、こちらは先ほどと同じように、200万の目標値に対して、700万の見込みです。二つ目、社会増減と自然増減による人口増減数なのですが、こちらについては、平成29年度目標値としては、マイナス21人に抑えるとしていたところ、実際にはマイナス71人になりました。こちらの内訳としましては、社会増減のほう、転入が355人、転出が363人でマイナス8人となっております。また、自然増減につきましては、出生が42人、死亡が105人ということでマイナス63人。それでマイナス8人とマイナス63人で、マイナス71人となっております。

続いて、三つ目の東名高速道路秦野中井インターチェンジ1日平均利用台数なのですが、こちらについては、インターチェンジの出口と入口の通った台数を集計しているものになりまして、平成29年度につきましては、プラス500台を考慮しておりましたところ、プラス205台になる見込みでございます。

いずれも、こういった事業を展開することによって、目標値に実際には達していないところもあるのですが、こういった事業を連携して、これから事業の見直しからのブラッシュアップを図ったりですとか、また事業を継続していくことで、数値が上がっていくものと考えております。

また、町外、県外のイベントに積極的に参加したり、中井町を知っていただくだけでなく、足を運びたいと思わせられるように、幅広く魅力を周知していく必要があると考えております。

それでは、このまま資料の3-1をご覧ください。もう一つ地方創生推進交付金事業に関しまして、県西地域活性化プロジェクト推進事業というものがあります。こちらにつきましては、県西地域2市8町で行っているものになりまして、『未病を改善する』をキーワードに展開してる事業になります。中井町の役割としましては、未病の見える化を図る拠点の活用や、未病改善プログラムの普及等により、ライフスタイルを見直す動機付けを行うものになります。

こちら2ページ目、同じく目標値の記載になっておりますので、先に資料の3-2のほうで、事業の報告をさせていただきたいと思っております。まず1番『未病センター・なかい健康づくりステーション事業』です。平成28年2月に、この健康づくりステーションのほうを設置しまして、神奈川県より、未病センターの認証を受けております。実際ここを活用して体力測定会や、脳年齢テストなどを実施しておりますので、そのときの写真がこの下の写真になっております。

また2番『健康プラン推進事業』になります。美・緑なかい健康プランに基づき、健康づくり、食育推進団体や、ボランティア等と連携し、電子レンジでクッキングや、ウォーキング講座、シニア入門講座、健康ポイント事業など、生涯各期に応じた事業を実施しました。また、平成29年度は新たに町内2会場において、体操サポーターによるラジオ体操会、通称“みんなラジ”を開始するとともに、中高年の方を対象として10会場を巡回し、炊飯器クッキングを実施しました。2ページ目をご覧ください。ぞれが写真と共に、様子になっております。

3番『身体活動量・質評価システム活用事業』になります。こちらのシステムが、左の写真のとおりです。身体活動量を使用し、歩数と中強度の活動時間により、日常の身体活動を把握するとともに、予防できる疾病との関係を見える化し、健康づくりに活用する事業を開始したということになります。

4番目『平成30年度の事業予定』です。未病センター・なかい健康づくりステーションにつきましては、開設3周年を迎えますので、3周年のイベントの実施を考えております。また、美・緑なかい健康プランにおける健康づくり、食育の推進、『なかいっ子わくわく食学び大作戦クッキングレシピコンテスト』こちら110年記念事業として展開していきます。1日1体操の推進、体操サポーター養成、育成研修の実施なども行っていきます。また、身体活動量・質評価システム活用事業の推進を図ってまいります。

こちら同じく資料3-1にお戻りいただきまして、2ページ目のKPIでございます。こちらにつきましては、まず一つ目、県西地域2市8町における人口の社会増減となっております。こちら目標値がプラス400名としていたところ、実績としてはプラス66名となっております。また二つ目、県西地域2市8町における入込観光客数なのですが、こちらについては、50万人というのはプラス50万人という意味になっております。こちらについては、まだ集計が先になっておりまして、公表できる状況にはないのですが、参考に平成28年の中井町の入込観光客数で言いますと、17万4000人を記録しております。

また、今年度で言いますと里都まちCAFEのプレオープンなど、さまざまな事業を展開していくことによって、この入込観光客数の増加に貢献できるものと考えております。三つ目、県西未病観光コンシェルジュ講座修了者数なのですが、こちらについても同じく、80名というのはプラス80名を意味しております。実績値ではなく、見込み値なのですが、今252名というふうに数値が

出ております。ここから、複数回の講座を受講している方が、この 252 人の中には含まれておりますので、その方たちを除いて最終的に集計するのですが、今の予想としましては、大体目標値付近の数値に収まるのではないかとこのように考えております。

この事業につきましては、なかなか KPI とのリンクというのが、難しいところもあるのですが、未病を改善するということの大本の目標ですね、そこを目指しながら、各事業を推進していくことによって、KPI にも結び付くものと考えておりますので、引き続き事業の推進を図ってまいりたいと考えております。すみません、説明長くなりました。こちらで地方創生推進交付金の事業の説明終わりになります。

座長 資料たくさんありますけれども、ご意見、ご質問よろしくお願ひします。

委員 今やった県西地域に関する社会増減なんですけれども、中井町以外でマイナスの所はあるのですか。

事務局 はい。実際に数値としては前向きなところもございます。今、手元で資料がなく、説明ができないのですが、増えているところも、実際にはございます。

委員 中井町だけがマイナスということなんですか。

事務局 中井町だけではなかったと思います。

座長 他いかがでしょうか。

委員 テーマいろいろあって。具体的なところで言うと、ノルディック・ウォーキングを進めたいというのがありますけど、それで、それはどういうコース歩くのかって。どこを歩いたか詳しく聞いてなかったですけど、交通事故の危険がありますよね。農道とか歩くのにはいい場所かもしれないけれども、非常に危ない。それで、どこを歩くかって非常に大事と思ひまして。こういうことのコースの設定、推奨、安全だと思われるとか、これ非常に大事だと思ひますよ、進めるのは。

それからあともう一つは、山間地ってすごく荒れていますよね。そこをきれいにするのと兼ねて、そういうコース設定できればいいなと思ひます。個人的には、町の中きれいにしてお客さん来てもらうのはいいんですけど、ちょっと裏へ入ったらジャングル。これはどう見てもバランス悪いですね。だからその辺が、荒れた道を整備するという。これはボランティア使ってもいいと思ひし、検討の余地はいろいろあると思ひますので、そういうことも考えながらやられたらどうか。一番怖いのは交通事故ですね。一発やったら途端にアウトだと思ひます。非常に注意をしてください、というのが 1 点。あといくつかあったんですけど、取りあえず今はそれだけにしときます。

座長 はい、ありがとうございます。

委員 自転車のところで、アンケートとして、当初の目的であった交流人口が載っているのですが、ただこれやはりお金がどうしてもかかるので、一番いいのは普通の自転車で乗りに来て、自転車で神奈川県は、海側の道、相当土日になると自転車で来る人も。ほとんど東京の方、しかもお金もだいぶ落として。

その中で、中井のこの公園。そういう、車が置いて周りを走れることで増えてくるかもしれない。本当に、都内から来ると、今土日は土曜日でも、川崎越えてから渋滞が続くんですけど、ちょっと時間つぶそうと非常に近い距離に中井の公園があったりして。その辺はうまくやっていただきたいなど。

もう一つは、総合型スポーツクラブって確かに難しいんですけども、事業の中に入れる必要はないと思いますけども、今盛んに部活の問題が言われていて、総合型スポーツクラブを使って、その部活の弊害に取り組むということが、どうやら法律として成り立ってるような。そういうこともちょっと頭の中に入れながら、どの事業をやられても、非常に実際、玉が飛んできたときに対応しやすい気がします。少しその辺を考えられたらいいかと思いますが。

座長 ありがとうございます。他いかがでしょうか。

委員 私は、中井のブランド開発とかで、ツアーとかをするときに、余りにも未知だったので、県西未病観光コンシェルジュの研修の初級から上級まで全部受けてきたんですけど、まず未病の観光地が中井には少なく、何でもいからスポット、例えばみかんの見える丘の所も候補になるとか、観光地をまず増やさないと。観光、観光と言っても、中井で観光を進めていくことが、ちょっと難しいのかなと思いました。それで、スポーツクラブの件では、大井町でも未病センターが出来上がってくるので、そこでかなり差別化とか、目的とか、趣旨をきっちり定めていかないと、厳しいのかなと思いました。

それで、私も他の委員が言うように、部活の問題が出てくるので、子どもたちがもっと体を動かせて、ストレス発散できるような場所が、今後この町にはないと厳しいのかなという意見も、かなりお母さんたちからいただいている、子育て支援センターがまず小学生が入れないので、体を動かせない。それで、異年齢で交流できる場所がない。例えばダンスを小学生も幼稚園児も一緒にやりたいって言うても、一緒に練習はできないんですという回答をいただいている。そういったことに、スポーツクラブは取り組んでいただけたら、今後いいかなと思っています。

座長 その辺どうですか、事務局は。

担当課 ただ今、スポーツクラブについてご質問がありました。この間、29年度中に総合型地域スポーツクラブについての勉強会を3回ほど開きました。その方たちにつきましては、体育協会、あるいはスポーツ推進委員といった方々にお集まりいただきまして、中井にスポーツクラブをつくりたいという趣旨の下、ご賛同いただきまして、この3回の会に出席していただいております。まだ未知数ではございますが、とりあえずその方たちが中心となって、今度6月に予定していますスポレク祭、そこでプレ的なものを一回やってみたいなということで。

そういったスポーツクラブそのものが、主にどういう種目が中心となるのか、その辺はまだ具体的なものはないんですが、ただサッカーであるとか、野球であるとか、そういう競技性のスポーツでなくして、子どもが参加できる、今言われたやっっていない子をやらせるようなスポーツクラブ、そういうような設立を考えておりますので。まだ未知数ではございますけど、今そういう動きはしております。以上です。

座長 はい、どうですか。

委員 多分、あおばの所にもスポーツクラブができる予定に今なっているので、かなりこれ、趣旨を決めてやらないと。体育協会の方たちって、割と子育てが終わってしまって、実質分からないこととかも多いと思うので、ぜひ町の保育園とか幼稚園とかにもアンケートとかをとっていただくと、より子どもたちの声が聞こえるのかななんて思っておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

委員 大体なんで全部うまくいかないかっていうと、入口がうまくいったっていうのは、簡単に言うと補助金をばらまいているんです。補助金がもらえる前提で、体協の方を中心に、今までやられてきた方がそのままそれなりに活動する。そうすると、日本のスポーツは縦割りで、言い方は悪いですけども、嫌いな同士で、なんで俺が野球やっているやつに頭下げなきゃいけないんだって、正直あるわけです。それが、世界の基準に合わせようと急にやったもんだから問題がでてしまう。

子どもはそこは関係なくて、さっき言われていたように発散できれば何でもいいんですよ。それをどうしても、スポーツクラブに入れても、野球をあなたはやりなさいとか、バレーボールはやれないとか、これがルールですとか、遅刻してくる子とかはもう帰きなさいとかってやっちゃうんで、根付かない例が、非常に単純なんですけど多いんですね。

そういう意味で言うと、部活っていうのも、そもそも目的がなんだって、競技力を高めるわけではないので、ストレス発散できる、暴れる。さっきも芝生の広場がありましたけどね。それだけ、優先的に使ってくればいいよという非常にシンプルで単純なものをベースにという。ただ、地元の体協の方とか、指導員の方っていうのは、長い間ボランティアでプライドがあってやられてきましたから。その人たちがへそを曲げると、またこれも仕事がしにくくなるってことで。その間に誰が入るのかっていうのが、一番ポイントだと思います。

座長 ありがとうございます。今委員がおっしゃっているように、総合型スポーツクラブの話は、既存のスポーツ団体と新しい概念がぶつかってしまっていて、一方、ニュースポーツって分野、いろいろ新しい。例えばスケートボードとかそういうのは、欧米だったら専用のコートがあって、そこに行けば町中がらがらやらなくても、決まった所でできるってことでやっっていて、できるだけ町中を汚さないようにしているんですけど、日本はなかなか、そういうものに対してあまり研究しないというところがあって。ニュースポーツのフィールドがなかなか少ないんですね。

しかし一方、気楽に楽しく、そういうスポーツをしようという国民的な雰囲気があって、特に若い人たちが。スポーツを本当にやる人は、そっち行けばいいんですけど、そうじゃない文科系

の人で、ちょっと運動しようよって人たちにすると、そういう新しいスポーツの場所を欲しがっているんですね。だから、総合型スポーツクラブはもしかすると、先にそちらのほうに。まだまだ、町中で活動しているけど、なかなか体協のように、ちゃんとした体育館借りようと思ってもできないとか。そういう人たちに対して、このスポーツクラブに参加していただければ、公認してって、そういうチャンス、場所の提供がしやすくなるというのは。設備を付けてあげれば、多分かなり入ってくるんじゃないかなと。

茅ヶ崎の中でも体操する会とかですね、レストランとかフットサルチームをつくって、それぞれリーグをやっているところがある。まあ別に行政に頼らなくても、民間で既にそういうことは動いているんですね。ただ、そういうものを支援する方法が全くないので、とにかく柔らかにスポーツクラブの中に取り込めるかどうかというのがすごく大事で。じゃあこれ、誰がやるのかという一番大きな問題で。この間、東京で一つあったのは、企業の運動会をまとめる NPO の代表がいて、要するに企業、昔は 1 社ずつ運動会をやっていたんだけど、最近は参加者も少なくなってるし。それを開くのに社員が準備からやると、とても時間とお金がかかるというので。

例えばここで言えば、中井の工業団地の会社に全部、一緒に運動会やりましょうって言って、その NPO が全部、それぞれの企業から費用をいただいて。そうすると、例えば 10 社の費用を集めてくれば、1 回の運動会で 10 社が競争もするし、楽しくできるという。そういうことをやって、非常にうまくいっている NPO があるんですけど、そういうようなくっつけていくような、NPO なり何かがないと、多分スポーツ型クラブってのはうまくいかないんじゃないかなと。ただ競技団体があって、それが連合して会をつくればいって話じゃなくて、もうちょっとそういうところのアイデアがないとうまくいかない。

それで、中井の企業って、運動会どうやって出したのかって教えてほしいですけど、運動公園もあって、企業もあって、まさしくあそこで企業の皆さんと、一緒に運動会できるなんてのがあってもいいような気がするんですね。そういうところから、このスポーツクラブの役割みたいなものができると面白いかなという。この辺はぜひ、縦割りだとなかなかうまくいかないんですけど、研究会やってらっしゃるということだったんですけど、お集まりになっている方の話を聞いていると、今で言う何となく抵抗勢力みたいになっていて、そういう方たちはどちらかという予算がないと最終的には動けないって話になってしまうので、そうじゃなくてボランタリーで参加してきて活動できる。企業のそういう形のものが、うまくくっつくのであれば、その辺から始めていくというの、不思議じゃないかな。あまり、生徒に大きな風呂敷に乗っけようとするよりは、既存の団体も既に、体協とかできているわけですから、逆に言うとそうじゃないところをまず取り込んで、そしてやっていくっていうのも一つなのかなと感じますね。

特にベルマーレは、振興事業では非常にクラブとしてもいろんな地域型スポーツがかなり意識されて活動されていますから。今、スタジアムとか、そういうマネージメントの話も出ていますけど、指定管理者をしているところは、施設だけを管理するというほうに重点が置かれて、そこにスポーツイベントなり、スポーツを誘致するというところをやって、芝生は傷つくわ、メンテ費はかかるわ、プラスは何もないわと言うんで、全国の数値を調べた大学の先生がいるんですけど、ほとんど役所よりもひどい。できれば使わないでほしい。使わなければ芝生は管理しなくていい。だから、できるだけ受け付けないという、そういうことなんですね。それはなぜかっていうと、管理費をどんどん絞られるからで。

例えば、音楽イベントを一発入れると、グラウンドの芝生はみんな、機材でつぶされるわけですね。その分の費用をもらえるかって、もらえないので。じゃあやめてくださいとなるんですね。だから、そういう指定管理者に対してのインセンティブとか全くない。唯一日本で回っているのは東京ドーム。あれは屋根があるんで、そういうイベントもなんでも準備しますし、他の競技場は、ほとんど真っ赤っかですね。

委員 札幌も回っていますね。野球、サッカーやっている。

座長 だからそういう所はいいんですけど、ほとんど専用とか運動公園とか、みんな駄目で。結局これから多分、大きなものを持っている所は、維持管理すごく大変になって、ますますどうするのかって話になるんですけど、そういう意味では、そこにニュースポーツみたいなものを取り入れて、利用していただくというのはあるでしょうし。芝生だけあればできるスポーツもいっぱいありますので。もうちょっと、その辺の視野を広げないと、社会のニーズに対して、答えていけなくなって、結局そのうち閉鎖しちゃうってことになってしまうので。ぜひ研究会では、その辺まで含めて。今度、今月確かもうすぐあると思うんですけど、スタジアムのマネジメントのシンポジウムがありますので、そういうのに行っていただいてどうするのか、どんな問題があるのかというのを確認していただくといいかなとも思いました。

委員 場所の問題もやはり大きくて、別にフルコートが入る必要はなくてですね、行政で、この時間帯使えないからいいってところがあれば、実験的に提供していけないかと思うんですけど。もともと、文科省がやろうとしたのは、学校を開放してやろうということだったんですね。学校って、教育委員会の中で安全の問題とかで、ちょっとどこどこで事件があったってことで、どんどん厳しくなっていっちゃって、何の価値もなくなっちゃう。そうすると、既得権で使った方が優先になる。長くやっている体協の皆さんにしてみれば、あれをやると、どんどん俺たちの既得権が侵害されるようだなという、勘違いが始まってですね。一緒にやってみましょうよって話なんですけど。

小さいスペースでも場所を取るということで、一番人気のあるスポーツというか、一番そのスクールでキャンセル待ちが多いのって何か分かります。サッカーなんか、いくらでも入れるんです。今、神奈川県で一番キャンセル待ちが多いのは、恐らく卓球です。卓球は、1年生とか2年生の部員が増えちゃったんです。あれだけテレビに出て大騒ぎでね。同じ年代の子が世界の頂点にいるわけじゃない、やりたい、優遇する。

ところが、体育館は、バレー部と、バスケと、卓球と分けながら、時間をずらして使う。だから4台しか台がない。そうすると、打つ時間がなくなっちゃうんです。この子たち、コーチたちが打つ時間がないから、どっか近くの公民館とか行くと、やっている所あるからそこに行きなさい。一斉にそうなったもんだから、全てキャンセル待ち。それで、公民館もじゃあそれを増やせるかって言ったら、増やせない。でも、よくよく見ていると、平塚なんかも駅前のビルで、どうしようもない外れで、古くてテナントで空いちゃっているビルとかあるわけですね。そうすると、卓球台も安くなって、今ゼビオなんか行くと、2万5000円ぐらいで売っているわけです。そうするとここのほうが、ひょっとしたら卓球台を置いて、子どもを集めたほうが、もうかるんじゃない

かなと思うんだけど、みんな困っている。

そういうところの受け皿をすばっと用意してあげると、スポーツに入ってくる子どもたちが増えてくる。預からなきゃいけないって問題で四苦八苦しちゃってる。普通に卓球やりながら宿題やってくれれば、親にとってみればこんないいことはない。というのが本来、総合型スポーツクラブですよ。ブラジルなんかで、子どもが危ない治安が悪くて。学校からスポーツクラブに真っすぐ行って、そこにいてコーチが、いわゆる何をしようと。スポーツは上手にならなくていいけど、安全上見てくれるという、警備員代わりですから。そういうことが多分、一番大事だろう。ぜひその辺を大事にしたほうがいいと思います。

委員 都内のほうも、ICカードみたいなものが、ぴっとそのスポーツクラブに入ると、お母さんの携帯のほうに自動的に、何時に入りました、何時に帰りましたって、行き帰りも把握されているというスポーツクラブが、かなり多くなっている。今後そういった、町の安全も図れるような政策がいいのかなって。

あと、ノルディック・ウォークとかって、割と小さい子どもはすごく抵抗があって。やりにくいというので。私先日、大磯町で参加させていただいたのは、2年後オリンピックがあるので、オリンピックの南アフリカの選手と鬼ごっこをしようというので。きっかけをつくって、50対、オリンピック選手3で、3分間で子どもたちが捕まらないかというの。祖父母の方も見に来てくださって、オリンピックにも興味を持ってきて、その後のスポーツにも興味を持つという流れもできたので、ぜひ町としても面白いところから取り組むというのがいいのかなって。

座長 そうですね、一番のキーワードは、楽しいとか、面白いという。ノルディック・ウォークとかそういうのでも、すごく真面目に。多分参加しないだろうなという感じがするので。ぜひ、もうちょっと楽しくやるということを出して。中井のこのキャラクターもかわいいし、里都まちのロゴもかわいいのに、内容は真面目なんですね。もうちょっと、緩くしたほうがいいかなって感じがします。

委員 この委員会って、スポーツとブランドが融合した、里都まちなかい魅力発信プロジェクトのレビューなのかと思っているんですけど、うまくいってるのかどうかとか、評価をするというのが、非常に重要な役割かなと思っているんですけど、にもかかわらず、プロジェクトの目標を全て割愛するというのは、すごい面白いなと思ったんですけどね。目標を達成するために、個々の事業があるのかなという印象があったんですけど、結果的に各目標は。まあ、まだ達成するところまではいかないんでしょうけども、プロジェクトとして達成の方向に向かっているのかどうかというのが、十分に理解できないというのが、まずあります。

その上で、じゃあそれぞれのプロジェクトがどういう成果を上げると、KPIが達成されるのかというところの説明もないので。71人減っちゃいました、困りました、みたいな話ですよ。なんでこの四つのプロジェクトがうまくいくと、21人減ることになるのか、よく分からないです。しかも、非常に多くが自然減だとすると、命を延ばせば、人口は減らないって発想になるんですけども、逆に言うと、単なる社会増、社会減だけではなくて、年齢構成としてどう考えてるのか、だから21人が実現できるんだって言ったときに、この四つのプロジェクトでどうして転入者が来

るのが、ほとんど説明をされていません。

そういう意味では、レビューの委員会だとすると、個々の事業がどうなると楽しいのかっていう議論では、私としては不十分だと思っています。具体的にロジックモデルって言い方になると思いますけれども、この事業がここを達成したい。一方で個別の事業については、ここがへこんでいて、ここは膨らんでいる。結果的に、これが達成できているできていない。それぞれのプロジェクトの目標が、それぞれここまで達成できている。だから KPI はまだ不十分なんだというふうな形の議論、事務局の説明をしていただかないと、それぞれの事業の非常に個別の内容が、議論になってしまうというのは、ちょっともったいないかなという印象を大きな話かもしれませんが思いました。

座長 はい、ありがとうございます。他、どうですか。

委員 個別のところ、一つアイデアと、一つ意見なんですけれども、まず、ブランド認証というのは、とても素晴らしい取組で、うれしく拝見しました。ここまでやっていただけると、私たち企業としても、例えば、社員に配るだとか。あとお客さまにお配りするだとか。あるいは、お越しいただいて、社内で即売会をやってもらうだとか。そんなところでの活路があるものですから。もしお役に立てるようだったら、そういうところでもお役に立ちたいなどは。また一方で、会社の中でも中井の魅力というのをプロモーションしていくいい材料になるかなということでお伺いしまして。これが一つアイデアです。

それからもう一つ、身体活動量・質評価システムのところで、私どもの商品をお使いいただきまして、どうもありがとうございます。これ正直なところ、ピークとしては、2、3年前の手法なんです。最近のご存じのとおり、AI とか人工知能ですとか、IT 化がものすごい進化が早くてですね。私どもも、開発競争に必死に食らいついている状態なんですけど、今やこのような活動は当然、ベースとして必要なんですけれども、さらにいろいろな測定。

例えば、よく腕時計で Apple Watch のまね事みたいなのがいっぱいあると思うんですけれども、大変たくさんメジャーが付いていまして、その測定でさらに予測。例えば、病院行かないと危ないですよ、ちょっと異常値があるので病院かかってくださいとか。さらに病気の方は、異常なカーブになってきていますよとか、分かるような時代になりつつありますので。何も最先端走る必要はないと思うんですけれども、トレンドについていけると、多分もっと皆さん健康寿命を延ばすところに意識がいきますので、そういうところ、こちらからも情報提供していったら、一緒にできることあれば、やらせていただきたいなというふうに願っております。

座長 はい、ありがとうございます。

委員 ちょっといいですか。聞いてて気になったのですが、里都まちなかい体験バスツアーというのがありましたよね。これってお金はどうなっているんですか、参加者からいただいているんですか。

担当課 先々週になりますけれども、横浜にあるスーパー、そちらのほうのお客さんを対象に、

中井町を知っていただくということで、実施をさせていただきました。3回に関しては、無料でやって、中井町を知っていただくということで、実施をさせていただいたものです。

委員 戻るといふかあれなんです、先ほどのノルディック・ウォークとかイベントの話にもあったんですけども、取りあえずイベントを仕掛けて、来てもらって、中井町を知ってくださいをやって。それでイベントに来た人は、イベントが終われば帰っちゃうといふか、それで目的達成しちゃうわけで。そのときにプラスアルファで、例えば先ほどありましたけれども、おしゃれなカフェがあるなら行ってみようと。ついでに子どもたち遊ばせるといいよね、公園なんだしと思って、したら遊具が使えなかった。というも多分戻って、カフェはよかったけれども公園は全然駄目よとか、そういう実際に来た人の口コミ力がマイナスに働いちゃうような気がするんですよ。

イベントを仕掛けているのは、実際に訪れた人の口コミ力に。まあ今 SNS とかなんで、実際に口コミってあんまないかもしれないけど、実際に来た人に好印象持ってもらえないと、逆に来ないほうがよっぽどいいんじゃないかといふところもあるので。要するに、逆に来た人が町を見て町がどうかといふ町の底力が試されているみたいな。先ほどの、ノルディック・ウォークができるというから来たけど、山は荒れ放題だとか言われちゃう。じゃんじゃん来るのは、まあ来てはほしいんですけど、その前にちゃんとお片付けしてからお客さまを招いたほうがいいんじゃないかと思いました。

それと、マスコミ関係で、記事を書いたりする立場からすると、なんでこんなに横文字とか、片仮名ならまだしもアルファベットが並んでるんだらうといふ。非常に親の敵みたいなんです。日本語にしてくれれば台所で2文字で済むものが、片仮名になると、キッチンで4文字になって。しかもこれがアルファベットになると6文字になるといふ。なんで台所にしてくれないだらうなと思いつながら。ここら辺が、こういう方法で突き進むといふんだったらあれなんです、なんか分かりにくいなと思いました。

座長 はい、ありがとうございます。では、まだありますので、次の議題。じゃあ、3番ですね。中井町まち、ひと、しごと。

(3) 中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業について

事務局 では、資料の4をご覧ください。『平成29年度第1回なかい戦略みらい会議指摘事項への回答』となっております。町の総合戦略の基本的戦略に基づきまして、前回の会議の中でご指摘いただいた内容に対する回答を記載しております。まず一つ目、新規就農者の座談会について、年1回開催といふことなのですが、それでは少ないのではないかといふご指摘です。これについては、新規就農者へのフォローがしっかりされていくのかといふところの不安からのご指摘だったと認識しております。こちらの回答につきましては、現状農地プランの関係で、計画の見直しが必要なため、年に1度新規就農者が集まり、その際に座談会も開催している状況です。

一方で、新規就農者への支援としましては、新規就農者の求めに応じて、農業委員を紹介して

相談に応じている状況です。また、県の農業技術センターの職員が、毎月1回新規就農者の農地を確認しに来ています。このようなことを通して、新規就農者へ継続的な支援を行っております。

続きまして、先ほどもありましたが、直売所は土日しか営業していないのですが、人気があるので毎日営業したほうがよいのではないかといったご指摘です。民間が運営をしている直売所の営業体制という点につきましては、なかなか町から変更を求めることは難しいとも思っております。また、土日に直売所のスタッフとして働いている方は、農産物を出荷している農家の家族であることが多くですね。家の農作業もやりながらであることから、人手的にも課題があると考えております。一方で、現在なかい里都まち CAFE のほうで、直売所の農産物を平日に販売しておりますので、この平日の需要がどれくらいあるのかということによって検証することができると思いますし、今後の直売所の営業日を見直すきっかけにもなるのではないかと考えております。

続きまして、基本的戦略2のほうに移りまして、情報コンテンツ等開発支援事業について、事業推進に向けた具体的な考え方や計画を示されたいといったご指摘です。こちらにつきましては、なかい里都まち CAFE のホームページを本年3月に立ち上げました。当カフェは交流拠点であるとともに、情報発信拠点でもあります。このホームページ上で、町で推進しているプロジェクトの情報や、町のイベント情報の掲載、施設の貸し出しと、施設を利用したイベント実施の紹介、町内で活動している団体の Facebook を紹介したりしております。町としましては、当該事業を推進するために、この取組を位置付けまして、町とお互いに情報共有を図り情報を提供しながら、充実した情報の提供に努めていきたいと考えております。

また、その他にも例えば子育て支援サイトでネウボラについての情報発信をするなど、所管課ごとに情報提供を行っている状況ですが、そのために総合戦略全体としての目的、内容が伝わりにくい状態になっているとも考えております。そこで、町ホームページに新たにバナーを設置して、総合戦略の一環として取り組んでいる内容を一元化し、効率的かつ効果的に情報発信を行っていききたいとも考えております。

続きまして、自治会長の負担になるからという理由で、町広報へのチラシの折り込みを断られたのですが、出したい情報が埋もれてしまうのではないかといったご指摘です。こちらにつきましては、町からの情報以外はチラシの折り込みを依頼されてもお断りしているというのが現状です。一方で、広報誌への記事を掲載するのであれば可能となっております。また、中井町町民活動団体登録制度という制度を創設しておりまして、それに登録された団体であれば、チラシの折り込みを可能にするということも、一つ検討しているところです。ただし、それを無制限に認めることによって、また同じく自治会長さんの負担が、という問題が発生してしまいますので、それについては、明日、自治会長会議を開催するのですが、その議題としても議論ができたかなというふうに考えております。

続きまして、基本的戦略3、子育て応援特設サイトに、イベント情報、予防接種の情報、夜間の当番医の情報なども掲載されたいといったご指摘です。こちら、イベント情報につきましては、現在特設サイトのトップページに掲載されておると、予防接種についても情報を見ることができている状況です。一方で、夜間の当番医については、足柄上や秦野、小田原医師会においては、当番医制ではなく、休日急患診療所で対応しておりまして、町ホームページのトップページから、足柄上医師会等と神奈川県ホームページの県内休日急患診療所のページにリンクさせております。

今後は特設サイトから、救急医療のページが直接見られるように、バナーを作成する予定もごさいます。

続いて里都まち暮らし応援隊事業につきまして、同窓会を企画して、なかい里都まち CAFE で食事をしてもらえば、地域の活性化にもなるのではないかと。また、具体的な話を決めてほしいといったご指摘です。本事業については、若年層を中心に中井町から転出をしても、再び中井町に戻って来るための取組を推進することが、目的となっております。ですので、ご指摘のように、なかい里都まち CAFE で同窓会の企画を実施することは効果的であると捉え、運営者と企画の検討も行っておるところです。シティプロモーションのワーキンググループなどを通して、町を盛り上げ、魅力を伝えていきたいと考えている方の発掘も進めております。地域活動への参画意欲が高い方も実際出てきております。なかい里都まち CAFE を拠点に、活動の展開を図っていききたいと考えております。

このように、町のために精力的に活動する方を里都まち暮らし応援隊と位置付けて、魅力の発信や企画に携わっていただくことで、中井町へ戻ってきたいという気持ちや、愛着の醸成を図っていききたいと考えております。なお、中井町を転出しても、中井町との関係が途切れないようにするために、例えばアプリで登録することで、町のイベントの情報を欲しい方が情報を取りに行かなければいけないのではなくて、自動的に町の情報が配信されるようなサービス、つまり、町から能動的に情報を発信するような仕組みについても、検討していききたいと考えております。

最後に、中央公園の利用者アンケートについて、より利用者の傾向などを分析できる内容にして、収益を上げる方法などを模索するべきではないかといったご指摘につきましては、ご指摘を踏まえまして、指定管理者と質問項目の見直しの調整をしまして、利用者のニーズを把握できるようにしたいと考えております。

続きまして、資料の 5 をご覧ください。こちらから『平成 30 年度新規実施事業』になります。こちらにつきましては二つございまして、一つが Wi-Fi スポットの設置事業になります。役場庁舎、井ノ口公民館、なかい里都まち CAFE の町内の 3 施設に対しまして、Wi-Fi の環境を整備します。今後、費用対効果を検証しつつ、スポットの増設についても検討を図っていききたいと考えております。

二つ目、三世代家族推進事業です。三世代同居等、同居および近居をするために、U ターン者等が町内で住宅の取得、または改修を行う場合にかかる費用を補助するものです。補助の内容としましては、住宅取得、新築、建て替え、購入の場合に、対象経費の 2 分の 1 を上限 80 万円として補助するものです。また、住宅改修、修繕、増築、改築等につきましては、対象経費の 2 分の 1、上限 30 万円を補助するものです。ただし、町内の業者が施工した場合には、プラス 20 万円を加算することになりますので、住宅取得の場合はマックス 100 万円。住宅改修の場合はマックス 50 万円となっております。こちらにつきましては、4 月から実際に運用を開始していく予定でございまして、以上で報告を終わりにいたします。

座長 はい。では、ご質問等があればよろしく申し上げます。

委員 里都まち子育て応援戦略のほうで、こども園になっての状況とかを全然公表できていないとか、把握できていないような状況があって、今後こういうのをどこにお問い合わせをしたらいい

いのか、私は分からなくて。先日、保育園のほうでも、自由保育を私たちは進めていますという意見いただいたんですけども、子どもが実際に、職員玄関の前で倒れていたという事案があったりして、その問い合わせをどこに聞いたらいいかと課のほうに聞いたら、「保育園のほうに直接聞いてください」と言われて。それで、保育園のほうに聞いたら「ちょっとお答えできない」とか。曖昧な回答があるので、何か問題があったときとかに、そういったことの解決処理をしている課がどこになるのかを今後明確化していただきたいなと思っております。

座長 お答えできますか。

事務局 担当課が今出席してないもので。今、委員さんのほうからご指摘いただいた件については、その辺の明確化とか対応については、しっかり一元化して対応させていただくように、担当課のほうにも伝えておきますので、よろしくをお願いします。

座長 他いかがでしょうか。

委員 里都まち暮らし応援隊の位置付けの精力的に活動する団体も、なるべくだったら平等にいろんな方に、均等に声を掛けていただきたいなと思っております。私たち児童館で活動をさせていただいているんですけど、私たちは、別の団体も割と子育て支援で活動している方たちとかもいらっちゃって。そういうこと知らないよとか、町が案外つなげてくれたりしているんですよなんて話をしても「どこに相談に行ったらいいのかな」とかって話を聞いたりもするので。均等に声がかかるように、今後なっていくといいなと思っていて、こういうアイデアを皆さんにも聞いていただいて、全員に声が行き届くようなふうにしていただきたいなと思いました。

座長 はい、どうでしょうか。

事務局 その辺につきましても、先ほどと同様に、特定の方にならないような形で、情報の発信はさせていただきたいというふうに思っています。

座長 はい、どうぞ。

委員 質問なんですけど、自治会長の負担になるから、広報へチラシの折り込みができないということなんですけど、チラシの折り込みって例えば、1部当たりいくらみたいにお金を出して、誰かに仕事としてやってもらって、折り込んだやつを自治会長さんに配布お願いしますとか、そういうふうにはできないんですか。自治会長さんが、チラシの折り込みもやっているんですか。

担当課 今のご質問なんですけれども、当町におきましては、仕分け自体はシルバー人材センターというものがやってございます。それを各自治会長さんのお宅に配布をして、自治会長さんに自治会の中でお配りをしていただいているという形になります。今平均しますと、各自治会にお願いをしているのが、町の広報誌を除いて、9種類の配布物を大体毎月お願いをしているという

形で。非常に数が近年多くなってきているというところで、自治会のほうからも、町からの配布物が非常に多いというご意見をいただいているところです。

ですので、前回ご指摘をいただきました現状ですと、町の主催事業等の配布物については、自治会を通して各町民の皆さまにお配りをさせていただいているんですけども、今後、町の活動団体登録制度というものも行いましたので、そういうものに登録している団体については、今後自治会を通して配布をしていただけるように、自治会のほうと調整を行っていきたいと考えてございます。以上です。

委員 自治会加入率どのくらいなんですか。

担当課 今 83 パーセント程度です。

委員 それ世帯数で。

担当課 人口でですね。世帯数ですと、約 79 パーセント、80 パーセントほどになります。

座長 自治体って、会長さんが一軒一軒回って配らなきゃいけないんですか。よく、回覧システムがあって封筒に入っていて、それが順番に渡されていって、抜いてくださいという。そういう自治体もありますけど。そうすると会長さんの負担はないと思いますけど。

担当課 配布物には、回覧のものと全戸配布というもので、各種団体と町のほうから、全戸に配布をしたいものについては、各自治会長さんから、各自治会によってですけども、各組長さんのほうに組ごとに配布物がいって、それを各お宅を回って配っていただくと。回覧につきましては、各組ごとに回覧物を回すというような仕組みになっているというところです。以上です。

座長 僕の町は、今組合長いるんですけど、封筒に入ったやつを回していますよ。そりゃ配布するというのが、増えていったら絶対できないですよ。

担当課 昔は印刷が高かったので、なかなか全戸配布といいますと部数が多くお金が必要だったんですけども、最近行政でも、ネットでの印刷等、大変印刷物の単価が下がってきたこともあってか、非常に戸別配布というものが大変多くなってございます。回覧で回すか、もしくは全戸配布という、どちらかを選択して、住民の皆さまに周知を図っているんですけども、近年は、戸別配布が多くなってきているという現状もございます。以上です。

座長 他いかがでしょうか。はいどうぞ。

委員 『里都まちブランド・里都まち「耕業」による地域経済活性化戦略』の1の所の直売所なんですけど。皆さん多分、直売所行ってないので、実態はご存じないと思うんですけど。私はよく行かされて、買い物行くんですけども、まず 30 分並びますね。それで、順番が来ると、ちょ

っと遅い時間に行くといいものがほとんどない。これが現実になります。まあ改善の余地はあるんだけど、人手がないとここに書いてありますけれども、ちょっと今のままじゃまずかろうと。これを戦略の一つにして中井町はやっていますよというにはね、はっきり言ってお粗末。

大井町、例えば四季の里を引き合いに出して申し訳ないんですけども、あそこは全部、バーコードだから早いんですよ。1人でやっていますけどレジ、ずっと早い。だから品数も多いし、場所も広いし、混雑もほとんどしてない。ただ、早く行かないと、いいものがなくなっちゃうって点では一緒ですけども。だからそういう意味で、大いに改善の余地はあるんですけども、町としても、柔軟にバックアップをして、別の組織だって言ってしまうえばそれまでなんですけど、改善の余地はあるかなと。ものとしての評判はいいと思うんです、安いしね。非常にその辺は残念だなんて。

座長 はい、ありがとうございます。なんかありますか、産業課の方。

担当課 先ほど事務局のほうからも説明がございましたけれども、毎週土曜日、日曜日の営業という話になっています。1日当たりの利用者が、レジ打ちで250人あたりが利用されて、年間2000万円を超える売り上げが出ているというのも、正直把握はしております。そういった中で、早く来て並んでというお客さま多くなっているのも見受けられますけど、よく事務局務めるJA等と連携を図って、運営というんですかね、そういったものも調整はしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

座長 他どうでしょうか。

委員 いいですか。確認なんですけど、結局人口をこれ以上減らしたくないというか、増やしたいからやっているんですよ、これ。そんな中で、新しいことを一生懸命やっても、その新しいことによって来た人が、なんだ中井町こんな感じなのかって、がっかりしちゃったら、意味がないような気もするので。指標とかもちろん作んなきゃいけないとは思いますが、新しいことにお金をかけるときに、今あるものを直すとか、補修するとか、手入れするとか、そういうところも少し考えておかないと駄目なんじゃないかと思います。

座長 はいどうぞ。

委員 関連で先ほどの話にも、今の委員の話にもつながるんですけど、目標を明確にして、そこにいくかどうかを考えないと、なんでもすることになると思うんですよ。何をしないでいいのかというのをやっていかないと、内政的にも無理がありますし。じゃあ逆に役所がやらないことによって、町の方がやってくれる仕掛けを作るとかってのもあるでしょうから。何を実現したいのか、すごくよく分かりにくくて。本当にこれで人口を増やすつもりなんですかって、よく分かりません。言い方は申し訳ないですけど。単純に人口を増やしたいとかじゃ、きつくないんだと思うんですよ、内容を見ていると。町の人が、たとえ人口が減ったとしても積極的に関わってくれる社会が大事だとかってというのが、中にすごく入っていたり。

一方でKPIはKPIとして、人口等の話になっているわけですよね。こことここがうまくいくと、人口を特にその中でも、社会増がなんとか実現できるとか、あるいは自然減を抑えられるとかという形のどこを実現するとどこにつながるのかという説明がないと、これが不十分ですよ。ねって言われたやつを全部やらなきゃいけない。結果的に全部中途半端になるって印象がすごくあります。やらなくていいことをしっかり考えなきゃいけないので、たとえここに書かれていたとしても、もしも最終目標が人口増だとすると、そこは今回ご指摘はありますが、あえてそこはやっていないんですみたいな議論だって、あり得ると思うんですよね。そういうふうにしてかないと、要望を受ける大会みたいな話にならないように。レビューがしっかりできるような、目標を管理するための会議なり、そうしたものをしっかり実現できるような準備が必要なのかなという印象を持ちました。

座長 はい、ありがとうございます。

委員 2点ほどあるのですが、この書類の中で『里都まちプロモーションプロジェクト事業報告』の3番目の一番下にこういう表現があるんですね。『今後、町では、それに共感する方々を結び付けていく活動を考えていく』と。ちょっと他人事みたいな表現ですけども、実は、私はまちカフェのほうに参加してまして、いろんな意見集約して活発な議論があって、最終的に冊子にまとめた。

それで、私がやっていくに思ったんですけど、これいくつかのプロジェクトができて、邪魔されるという言葉は悪いけど、何かの目的で活動に入るのかなと思ったら、そういうことじゃなかったんですね。こっちのプロジェクトじゃなくて、冊子ができておしまい。それで、その冊子を作るときも何回も打ち合わせしましたけれども、第1回目が一番楽しくて充実していた。いろんな人が来ていろんな意見言って、それを編集して一部のものに抜粋したものを作ろうと、企画の担当者のほうでされたんですが、全提案事項を載せるべきだと、そういうふうに言ってくださっている女性がいて、全編載せたものを作ったと。

ただ問題は、そこから先なんです。もっと具体的な活動に出るのかなと、やんなくちゃいけないんじゃないかなと思っていたんですが、そういうふうには残念ながらならなかった。私がやりますと言うべきだと思うんですけども、それで、いろんな経験者に聞いてみますと、こういう活動を何度もやってきて、アイデアを出してまとめた。それで、そこから先がない。ちゃんとここに書いてありますが、結び付けていく活動を考える、という表現になっていますよね。目的はこれだろうと思うんですよ。それで、具体的な行動に移していけないと、何度やっても意味がない。だからもうここらで一つ、具体的に落としていくようなことをしないと駄目なんですというのが。

もう1点は、片仮名使いますけども、コグニサイズってあるんです。ご存じだと思いますが。認知症予防の軽い運動なんですけどね。興味があって行って見たんですが、これが殊の外楽しい。全然知らない人が集まって、簡単なゲームやるんです。これは失敗してもいいんですよ。それをやると、知らない人とのコミュニケーション。まあすごく仲良くなるわけじゃないんですが、体を動かして頭を使って、限られた時間と場所で、お金はかかりません。やるのが非常に楽しかったんですね。それで、中井町にもこれからお年寄りが増えていくと思うんですが、なかなか集ま

ってね、楽しくやるゲームってない。多少体に不自由があってもできないです。こういうことができるといいなど、参加したときは思いました。うちへ帰ってやったりはしませんでしたけれども、実はとても楽しい。皆さんも一回やられるといいですよ。

座長 はい、ありがとうございます。

委員 私はこの町で NPO 法人を設立させていただいて、今活動をしています。今児童館活動って、井ノ口上会館を借りて活動させてもらったりしているんですけども、自治会が鍵を管理しているということで、今まで会社運営をされてる方が自治会長さんだったんですけど、4 月からは別の方が変わって、全く個人の方になってしまうということで、今後、鍵が借りられるのか。いつ借りに行ってもいいとかそういう関係で、今後は児童館とかも使いにくくなってくのかなというので、ちょっと不安を抱えていたりします。そういったこともきちっと解決して、今ある既存の建物を活用していただけるように。せっかく児童館も三つあるのに、各自治会に管理してもらっていて「私たちノータッチなんで自治会に許可取ってください」とかって言われることが多くて。これをきちっと生かせばいいんじゃないかなと思ったりします。

本も、多分設立当初の本だと思うんですけど、ずっと同じ本しかなくて、子どもたちもそこに行きたいかって言ったら、皆さん子どもだったら行かないと思うことも多々あって。ぜひ町の職員の方も、子どもに返ってもらって、一回そこに足を踏み入れていただけたらいいかなと思っております。

町のほうで、今コミュニティ食堂とって、多世代が交流できる食堂もやらせていただいて、毎月 1 回なんですけど、常に 70 名近くの方がいらっやっています。職員も、参加されている方もそうなんですけど、寄付をいただいていたとか。あと今回、平塚にありますフードバンクひらつかがご協力いただいて、定期的にお米とか、おみそとかも協力して中井町のために、活動一緒にさせていただきますということで、今回お声掛けをいただいています。

1 人でご飯を食べなきゃいけない子どもたちとか、あと結構ご年配のお年寄りが今、小田原から 1 人いらっやっていて「実は僕マージャンが趣味なんです」という方で「子どもたちとマージャンがしたいんです」とマージャンパイを持って、子どもたちに一生懸命説明してくれて「1 人じゃできないことでも、こうやってみんなが集まればできるんだよね」なんて、目をきらきらさせながら来てくださって。「この町ってこういう施設があつてとってもいい町だね」というお褒めの言葉もいただいたりしました。なので、こういう場所をもっと増やしていけたらいいなということ。

今年、私たちの団体ごとなんですけど、テーマは竹に絞って。竹を子どもたちと切りに行つて、竹の遊園地というのを 4 月 14 日のマーケットの会場に実際につくって、使い終わった竹は竹炭に子どもたちとして、畑で遊んでこようかななんてこともやっていますので、もしご興味ある方いたら、ご連絡いただければ。ぜひ一緒にやっていただきたいと思います。よろしく願います。

座長 はい、ありがとうございます。

委員 私、今回2回目出ささせていただきまして、立ち上げ当初は、全員が携わってたわけですが、今回2回目の段階で、お話を伺う中で、先ほどから何度かお話は出てるかと思うんですけども、この資料もそうなんですが、内容的に具体性に欠けるというんですかね。もうちょっと細かく、ベースというものをいただけないと、なかなか踏み込んだ形での話し合いというのは、正直難しいのかなという。どちらかという、委員の方々は、結構具体的な例を出してお話をされるんですけど。

この資料を見ると、やりましたとか、行いましたとか、何をしましたって書いてあるんですけど、じゃあ具体的に参加された方がどういう感想をおっしゃられていたのかだとか、それを延長線上にまたさらに広げていこうと考えると、どういったものがあるのかとかという、今後のことにつながっていくようなものが、広告は広告として、そこで終わってしまっているようなイメージを感じました。どちらかという、主体的にやっていたらいいのを伺った上で、今後の方針にどういった形で結び付けていけるのかということできれば話し合う場なのかなというところはありますけれども、なかなかそこにいきづらいつころがあるのかなと。細かい、先ほどちょっと話が出ましたが、じゃあこれで何が増えたの、何がどうなったのかというところを踏まえて、そこを少しはっきりしないと。

私もまだ2回ですけど、正直話を聞いててもどうしたらいいのかなというのが本当に曖昧なので、よく分からない部分があって、せめて、もう少し身近な部分で、細かい数字も含めて、具体的にこういうことがしたいんだ、やりたいんだ、こういうところをゴールとして見据えて動いてるんだということを示していただけると。じゃあこういうアプローチの方法もあるのかな、とかってところが出てくるのかな。

私は職場が中井なんですけど、住まいは中井ではございませんので、住民というわけではないんですけども、だから、住民向けのサービスですとか、そういったものも。実際のところ、私もよく把握ができてない部分もあるんですけども、それでも何点か、どうなのかなという部分があって、先ほどちょっと話にも出ましたが、公園の遊具の話もそうなんですけれども、ここで新しくされるということなのかもしれないんですが、実際に約1年間使えない。うちも小さい子どもがいるので、一度来て使えないな、なんて思って。その後中井のほうに赴任しましたので、そこを通る度に見ると、まだ駄目なんだなと思っていて。さっきマイナスイメージっておっしゃっていたんですけど、やっぱり来て遊べないと、マイナスイメージだと思います。逆にそういうのって記憶に残るんで。

南足柄も遊具壊れているんです。結構親ってそういうの見るんです。あそこ駄目だな、ここ駄目、とかって。それで、逆に言うと子どもが使うものだし、安全もしっかり考えていかなきゃいけないものだと思いますので。例えば新しくするのであれば、ここで新しくして、いつ壊れてもすぐ直せるような。まあ予算も含めてですけど。そこまで含めて考えていけないのかなと。15年使ってらっしゃるってお話でしたけど、15年あれば壊れるのかなとは当然思うので、壊れる前にある程度の準備をしておくべきなんじゃないのかなというふうに思います。

道挟んだ反対側で、新しくきれいな建物が出来上がっているんです。こっちにはものすごくお金がかかっているのに、なんでこっちがいつまでたっても直らないのだろうというのは正直なところ思うんですね。その辺も含めて、そういうバランスも考えるべきなのかなと。今後そういったことも含め、次回に少し細かく。住んでいる人間じゃなくても分かるような感じの事業に出来上

がっていると、意見が出しやすいのかなという。

座長 はい、どうぞ。

委員 町外の方への情報発信という点で、もしお手伝いできることがあれば、県西センターまでご相談等、後ほど情報提供いただければと思います。

座長 はい。

委員 今日お話のありました、どこ目指しているんですかだとか、果たして効果があるんですかとか、メカニズムの話から入っていかないと、多分いけないかなと思っていまして、私はその辺素人なので、なんとも言えないところがあります。ただ1年間、中井で仕事している立場のものとして、実は変化をだいぶ感じていまして。いろんな形で、いろんなことが進んでいるんだなどというのは、肌身で感じるようになりました。また私たちも、会社としても活用できる施設も、多々出てきたかなというふうに思っております。

ただ、これから大切なのは、続けるものは続ける、それから見直すものは見直すというサイクルをしっかりと回していかないと。こういったせっかく上向きのベクトルが、さらに上を向くかどうかかって分かりませんので。そこも含めて、こういう場で議論していくといいかなと思いました。以上です。

座長 じゃあ最後。

委員 行政の立場でこの委員としてメンバーに参画をさせていただきます。資料の面や関わりの中で、いろんな視点で見ていくことがまず大事かなと。人口減少はある程度仕方ないのかなという中で少しでも抑止していきましよう。そういった中でも、一方では、町として定住も増やしていかなくはいけないという。それで、中井町の特徴もちょっと見えてるのかな。どちらかと言うと、田舎で積極性、取り組むという視点では欠けている面もあるのかなと。アピールの仕方が下手くそ。今やっている生活が当たり前なんだよということが、常々あるのかなと。私もここに住んでいる人間なので、それはよく感じる場所があるので。

改めて外から見た視点が、こういうところがあることをうまく伝える仕掛けをして。なるほど、だからこうなんだということがうまくできるといいのかなと。先ほど言いましたキッチンが台所だったら、片仮名が、横文字が平仮名だったら理解できることもあるのかな。そんなことを私個人的にも感じたのですが、その辺が少し見極めをしていくといいかな。いずれにしても、求められていることは具体的な数字をどうだしていくか、結果的にどうするんだということが、求められているのは事実なんです。

それらをもうちょっといろんな角度から見極めしていって、さらには、現実的に中井町の動きが見えることが、それはハード面、あるいはソフト面、それが見えることによって、結果として周りの人に評価してもらい、また発信してもらい、なかなかこれもまた難しいと思いますので。なんか一つそんなのを仕掛けとしてできると、なるほどって理解できるのかな。そんな感じしま

す。資料を作ること、そういうことが仕事になりがちなんですが、改めて、そういうところ、視点を変えてものを見るということをしっかり勉強させていただきながら、一つひとつ行っていきたいと思います。

座長 はい、ありがとうございます。では、厳しいご意見も出ています。やはり目標に対してきちっとどうしてそういう原因が起きているのかということを知るようにぜひやっていただきたいと思います。もう一つ最後に言わせていただくと、地方創生の目的として、行政の皆さんの意識が変わったかどうかというのはすごく大きくて。その辺は本当は、お聞きしたいんですけど、ぜひ次回はそういう気持ちを含めて、資料作っていただいて、皆さんのほうでも議論されているんだろうと思いますので、ぜひ、単なるイベントが1個増えてそれをやったということではないんだと思うんですね、今回は。やはりどういう意識が変わったのかとか、そういうことをやっていただきたい。

先ほど、全部やればいいんじゃないなくて、取捨選択、集中と選択をしろというご意見も出ているように、効果に対して有効な活動に持っていく必要がある。それは実際にやってらっしゃる皆さんが一番、もしかすると感じてらっしゃると思うので、ぜひ、来年度その辺もうちょっと見直していただきながら、特に委員のほうからも、かなり最初にご指摘がありましたので、ぜひその辺も含めて、努力していただければと思います。今日は貴重なご意見いただきました。事務局のほうで受けていただいて、次年度に活かしてもらえばありがたいと思います。今日は皆さん、本当にどうもありがとうございました。

4 その他

特になし

5 閉会

鶴井企画課長より閉会

以上